

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その10）

2020年3月吉日

広島地区ミニバスケットボール連盟

副会長 大庭 浩 資

広島地区ミニバスケットボール連盟の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

また、この3月で選手が卒業される保護者の皆様、まだ少し早いのですが、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

そしてこれまでの広島地区ミニバスケットボール連盟へのご支援・ご協力に対しまして、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

1月中旬の4年生大会、2月に入ってから5年生大会、そして先日の6年生大会と大きな大会が続きましたが、会場校をはじめ多くの保護者の皆様や指導者、役員の皆様のおかげで、無事終了することができました。

特に6年生大会は、開催予定日がもう1週間ずれていたら、新型コロナウイルスによる肺炎拡大防止の影響で開催そのものが難しかったと思います。6年生にとっては最後の大きな大会が無事終わり、たくさんの思い出をつくって中学校へ進学できることを、心から喜ぶたいものです。

一方で、まだまだインフルエンザの流行も続いており、さらに新型コロナウイルスの影響が広島県にも広がっています。保護者としても指導者としても、これからのいろいろな情報をしっかり把握し、まずは選手の健康を一番に考えた対応を心掛けたいものです。

さて個人的な話になりますが、私が一人の指導者として今のチームの手伝いを始めて、約1年が経ちました。

初めは主に2年生以下を中心に基礎練習をしていましたので、そんなに難しさは感じることなく、楽しいバスケットボールを伝えることに専念していました。

しかし、高学年に帯同し大会で試合を見るが多くなるにつれて、今の選手の技術の高さに驚かされました。と同時に、選手の技術向上のための指導法は、私が過去にチームを指導していた時とはずいぶんと違うことを感じました。そしていろいろな指導者の話を聞いたり、指導の様子を見たりすることは、驚きと同時にある意味とても新鮮でした。

多くの指導者の「熱意」や「常に学ぶ姿勢」を目の当たりにし、このような方々のおかげでミニバスケットボールを愛する子供たちが増えてきたのだと、改めて実感するとともに本当に頭の下がる思いです。

指導方法や内容は、それぞれの指導者がチームの実態に合わせてながら、工夫・改善をされていますので、どの方法が良いとか悪いとかは軽々しく口にすることはできません。

ただ、私が個人的に「良いチーム（強いチームではありません）だな」と感じるチームには、ある共通点があることに気付きました。

それは、

- ・あいさつがきちんとできる。
- ・大きな声を出しながらコミュニケーションをとることができる。
- ・指導中のコーチの指示や合図をしっかりと聞き、それに対してすぐに反応したり行動したりすることができる。
- ・全員が試合に集中し、誰一人ボールから目を離さないで応援するとともに、タイムアウトがかかれば、全員が素早くコーチのもとに集まり真剣に話を聞くことができる。

などです。

よく、今どきの子供たちは、「大きな声を出すことができない」とか、「コミュニケーションをとるのが苦手」だとか、「話をきちんと聞くことができない」とかいろいろ言われますが、少なくともミニバスケットボールの良いチームの選手はそんなことはありません。

しかしこれらのことは、選手に自然に身に付くものではないはずです。きっとそのチームのコーチや保護者が、ミニバスケットボールが上手になる以前に、人として何が大切かを常に意識しながら指導されたり、日々の子育てを行ったりされているからです。当たり前のことを当たり前にできるよう、言い続けていらっしゃるからです。

「しつけとは、しつづけること」とも言われています。

さらに言えば、これらのことをきちんと身に付けることこそ、ミニバスケットボールの技術が上達する近道になるのではないのでしょうか。

私も自分のチームの選手には、練習会場でも試合会場でも

- ・大きな声であいさつをすること
- ・靴をきちんとそろえること
- ・トイレのスリッパをそろえること
- ・試合が終わった後は、ベンチの椅子をそろえること

を常に言い続けていますが、なかなか徹底するまでには至っていないことを、自分自身反省しているところです。

これからも保護者として指導者として、常に学ぶ姿勢を忘れず、互いに切磋琢磨しながら、選手のために頑張っていきたいものですね。

来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。